

我が国初となる国産ジェット旅客機の開発に伴い、同機に取り入れられる新技術に対応した安全性審査方式を導入し、適切かつ迅速に審査を実施しており、2020年半ばに予定している実用化につなげていく。

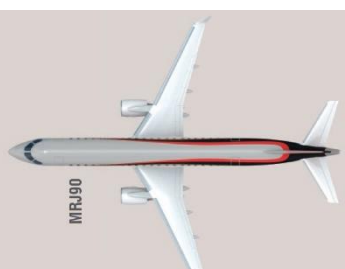
(2015年11月11日初飛行離陸直後の様子)
提供：三菱航空機㈱



- ▶ 我が国で初めての国産ジェット旅客機(70~90席クラス)
- ▶ 今後20年、世界で5,000機以上の需要が見込まれる100席以下のクラス(リージョナルジェット機)の市場に投入

主要諸元*

最大離陸重量 : 42,800 kg
 最大運用マッハ数 : マッハ0.78 (約830km/h)
 離陸滑走路長 : 1,740 m
 着陸滑走路長 : 1,480 m
 航続距離 : 3,770 km
 標準座席数 : 88 席



* 開発中のため変更の可能性がある



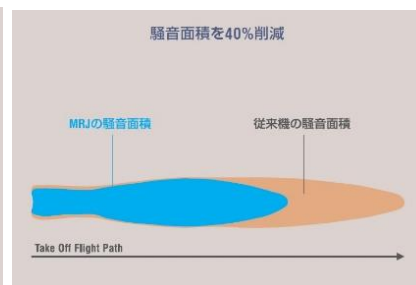
受注状況 (正式契約) 計387機

全日本空輸(初号機納入先)	25機
トランス・ステーツ・ホールディングス(米国)	100機
スカイウェスト(米国)	200機
エア・マンダレイ(ミャンマー)	10機
日本航空	32機
エアロリース(米国)	20機

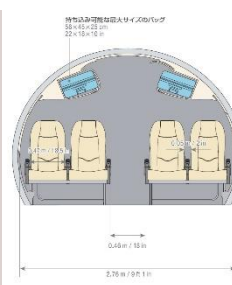
セールスポイント



燃費の優位性



低騒音

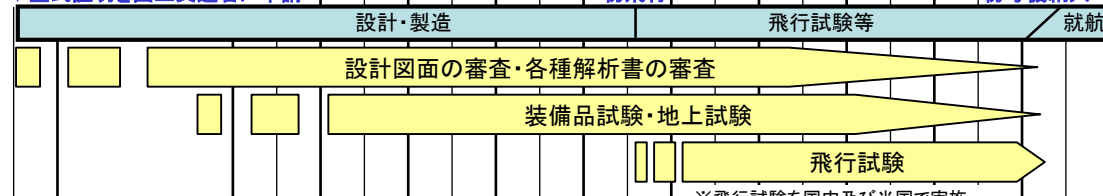


客室の快適性

型式証明の申請から証明・就航までの想定スケジュール

※2017年1月見直し

2007年度	2008~2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
						初飛行					初号機納入



国土交通省の取り組み

- MRJを開発する三菱航空機(株)が所在する名古屋地区に「航空機技術審査センター」を設置し、設計の安全性審査体制を構築・拡充(現行73名体制)
- 安全審査担当の能力向上を図るべく、米国の航空当局とも連携して、専門研修を拡充
- 安全性審査にあたっては、米国・欧州の航空当局の安全性審査担当者と密接な連携を実施

型式証明 飛行試験

派生型機
設計変更
不具合対策

- ▶ 初飛行:
2015年11月11日
- ▶ 初号機納入:
2020年半ば